

# 嘉納治五郎に学ぶ体育科教育法

専攻	教科・領域教育専攻
コース	生活・健康総合内容
学籍番号	M09213g
氏名	陳昱龍

## I. 背景・目的

中国は、2008年に北京オリンピック大会を行い、史上最高の成績で、メダル獲得数第一位となった。しかし、大会後の調査によると、「中国はオリンピック大会の頂点を極めたが、スポーツ大国とはいえない。なぜなら、他の先進国のスポーツ人口比率（70%）と比べると、はなはだ残念な結果で、40%に足りない」という事であった

つまり、一流選手の競技力を見れば、世界の上位なのに、この国では運動の楽しさを感じられる人がごくわずかなのである。これは、中国の体育教育の大きな欠点と言わざるを得ない。

このことに気づいたことが、本研究のきっかけになっている。

また、交換留学生で最初に来日した時、嘉納とクーベルタンについて調べ、嘉納治五郎の教育思想に強い関心をもつようになった。嘉納の柔道家としての、また教育者としての、さらにはIOC委員としての業績にふれて、大変な驚きと感銘を受けた。そこで、修士論文として嘉納治五郎の思想と実績に着目し、その真髓を明らかにし、体育科教育の方法的原理を読み解くことを目的とした。

すなわち、中国における今後の体育科教育に貢献する知見を見出そうとすることが、本研究の目的である。

## II. 方法

### 1. 対象文献

「嘉納治五郎：私の生涯と柔道」嘉納治五郎（2006）日本図書センター、「嘉納治五郎師範に学ぶ」村田直樹（2005）日本武道館、の2冊を対象文献の中心とした。また、他の嘉納に関する書籍も適宜参考にした。

### 2. 作業の手順

（1）上記①②の書籍を購読し、下記の観点を中心にまとめた。

- ①講道館柔道の確立過程の整理、(特に指導法を中心に行う)。
- ②嘉納の東京高師時代の業績の整理、(特に教育理念や制度を中心に行う)。
- ③嘉納のオリンピック委員会における役割・業績の整理
- ④「業績年表の作成」①から③までの作業を通して嘉納治五郎のスポーツ界・教育界における業績年表を作成した。このことによって、業績や出来事の関連性を見出し、その背後にある嘉納の教育思想を読み解く参考とした。

以上の①から④の作業を通して体育科教育法に対する知見を得る。

## III. 結果

本論の第三章を「嘉納治五郎の生い立ち」とし、まず第一節では彼の成長過程にあたって中心的な役割を果たした教育観をまとめ、

第二節では嘉納治五郎が通った学校に注目し、それら学校からどんな影響を受けたのかを明らかにした。第三節では、嘉納が柔術修を始めたきっかけに言及した。

第四章は「講道館柔道の創始とその発展」とし、第一節で講道館の創設を説明し、第二節で講道館柔道の発展の間に問題になった教育活動を中心に教育理論への流れについてみた。すなわち、講道館の成立前後の教育思想と柔道実践の実態をふまえ、教育思想が与えた影響を考えた。

第五章は、「教育者としての嘉納治五郎」とし、第一節で「初めて教職に就く」時代から時間の流れに従って、嘉納の学校教育における基本思想の成立過程をまとめた。第二節では高等師範学校長時代の嘉納治五郎の教育思想を教育の目的と人格の完成を中心に明らかにした。

第六章は、「体育の父」嘉納治五郎とし、講道館柔道の成立から東京オリンピックの招致まで、嘉納が日本ととまらず、世界にわたっても体育事業に大きな貢献をした点についてまとめた。

第七章では、嘉納が講道館柔道の二大原理として説いた「精力善用」と「自他共栄」について考究した。

第八章は、「嘉納治五郎に学ぶ体育科教育法」として総合考察した。

第九章は、本研究のまとめとした、教育法研究を中心に考察し、体育科教育法的方法的原理としてまとめた。

#### IV. 結 論

##### 1. 体育に対する考え方で学んだこと

- (1) 「伝統」の意識
- (2) 「精力善用」の気持ち
- (3) 「自他共栄」の気持ち
- (4) 「礼」の表現

##### 2. 方法的原理として学んだこと

- (1) 運動学習の中核
- (2) 段位制（意欲の喚起、技の体系化）
- (3) 「自主性」の重視
- (4) 形(基本の重要性と技の体系化)
- (5) 受身（安全性の保証）
- (6) 乱取り（プレイ性の重要）

上記結論に加え、嘉納の「教育之事天下莫偉焉一人徳教宏加万人一世化育遠及百世、教育之事天下莫楽焉陶鑄英才兼善天下其身雖亡余薫永存」（教育は天下でこれより偉大なものはない、一人を教えたら万人に教えられる。教育は天下でこれより楽しいことはない、教育を受けた人が天下をよりよいものにしていくことが出来る、その人が亡くなるといっても教育の事は世の中に生き続ける）の漢詩を記して、私の中国の教育界に貢献する糧としたい。

主任指導教員 後藤 幸弘  
指導 教員 後藤 幸弘

